|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（１年め）** | | |
| **１．事業計画の概要** | |  | |  |  |
| **学校名** | 大阪府立港南造形高等学校 | |
| **取り組む課題** | 授業改善への支援（生徒の学力の充実） | |
| **評価指標** | １　外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上  ２　学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 | |
| **計画名** | 美術教育最先端“港南造形のICT飛躍的改造”計画　“*Konan　drastic innovation”* | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | |  | |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | １ 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成  （１） 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。  ア １年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ（全HR教室）と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科（数学・理科）の克服を図る。  イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。  ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。 | |
| **事業目標** | * 「ICTを活用した授業改善」により、学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（平成29年度78%、平成30年度84%、令和元年度80%）を、令和４年度には90％に近づける。 * 「発信力」の育成について、卒業時にはすべての生徒がICT機器を活用して、プレゼンテーションができる力を身につけ、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。今回、普通教室（15室）への短焦点プロジェクターを設置することにより、生徒が所有するAndroidタブレット端末の活用を促進する。 | |
| **整備した**  **設備・物品** | 電子黒板機能付き超単焦点プロジェクター ９セット | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | 主担者： ICT活用授業改善チーム  実施者： 全教員の８割程度を予定（最終的には全教員） | |
| **本年度の**  **取組内容** | ・プロジェクターの設置が令和３年２月中旬となり授業での活用はできていない。 | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | １ 「スタディーサポート」の学力・学習バランス（総合）タイプ③（学力◎学習◎）を現状の50％を60％になるようにする。特に「数学」のGTZ「D1」を「C3」に向上させる。  ２ 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」（R１年度平均84％）を90％に近づける。 | |
| **自己評価** | * 活用できていないため、検証できない。 * 来年度に向けて、機器利用の試行を進め、使用方法等について研修等を進める予定である。 | |
| **次年度に向けて** | ・生徒所有のタブレット端末(BYOD)、府貸与のChromebookと、電子黒板機能付き超単焦点プロジェクターとを連動させることで、今年度教育センターの「パッケージ研修」と連携して全ての教科で進めてきた授業でのICT活用をさらに進めていく。  　数学では、関数の定義域等の理解に、生徒自身がICT を操作して視覚的に問題を把握したり、解決に至る見通しをもったり、シミュレーションしたりしながら、数学的な見方や考え方を深化させ、思考力・判断力・表現力を育成していく。  美術では、主観的な見方や感じ方を大切にしているが、他者の感じ方を意識することも表現活動では重要であるので、ICT 機器を活用し、客観的に作品を見ることから新たな気づきにつなげていく。  ・プロジェクターを効果的に活用し、初年度の目標を達成していく。 | |

**３．事業費報告**

